

## かお・人・interview

2024年7月23日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
山国川河川事務所 所長

## 小野朋次氏

ONO Tomotsugu

山国川河川事務所の所管する山国川は九州の一級河川の中でも屈指の河床勾配を誇る。景勝地が広がっており、川の保全・管理はもとより環境保護に関しても特別な配慮を必要とする。流域住民が安全安心に暮らし、豊かな自然と共存するためにはどのような治水対策が求められるのか。流域の特性を考えた防災対策や地域経済の活性化など、現在取り組んでいる事業について小野所長に話を伺った。

## Q所長就任にあたっての抱負

山国川の特長や最近の気候変動の影響を踏まえ、河川管理者として特に重要なのは防災・減災対策と考えています。山国川流域の気候は比較的雨量の少ない瀬戸内気候ですが、九州の一級河川の中でも急流河川であるため、水を蓄える力が弱い反面、ひとたび大雨が降ると大量の水が流下するといった、豊水と渇水の差が極めて大きい、流況が不安定な特性を持っています。度々発生している洪水や渇水に対処すべく、河川整備、河川管理に加えて、耶馬溪ダムや平成大堰を含む管理施設を適切に管理し、平常時の流水管理や洪水等の危機管理に努めているところです。

あわせて、河川の大部分が耶馬日田英彦山国定公園に指定されており、美しい自然環境があることで、自然景観に配慮した川づくりを行っているところです。



▲競秀峰からみる山国川

また、防災や川づくり以外にも、山国川は数多くの景勝地が点在する美しい自然環境を有した河川です。今後もこの景観を後世に受け継ぐべく、治水と景観・環境保全の両立を図りつつ、地域の皆様のご期待に応える川づくりを進めていきたいと考えています。

## Q九州と大分の関わりについて

出身は佐賀県白石町です。実家は、一級河川の六角川の流域ですが、低平地であることから、大きな出水の時には、張り巡らされたクレークから水があふれ、内水により一面浸水している状況が子供の頃から見えていました。これまで、平成7年に九州地方建設局(現九州地方整備局)に採用されてから、九州農政局および環境省へ出向



▲競秀峰とネモフィラ(山国川)

するまでは整備局管内での勤務でした。

大分との関わりですが、大分県内の勤務は2回目です。平成24年に当事務所ダム管理課で専門官として、現場で耶馬溪ダムの管理を担当しました。当時は平成24年7月の九州北部豪雨により山国川でも大きな災害が発生し、治水事業や防災の重要性、また、説明責任についても改めて実感しました。

## Q山国川の特徴

山国川は、その源を大分県中津市山国町英彦山(標高1,200m)に発し、38の支川を合わせ、中津川を分派して周防灘にそそぐ幹川流路延長56km、流域面積540km<sup>2</sup>の一級河川です。流域は、中津市をはじめとする3市3町からなり、流域の約8割が耶馬日田英彦山国定公園の指定を受け、川沿い(6k240より上流)は、名勝「耶馬溪」に指定されています。とくに、中・上流域は溪谷や奇岩が数多く点在し、それらは名勝「耶馬溪」に指定されており、なかでも青の洞門・競秀峰は全国的にも有名で、溪谷の秋の紅葉の美しい景観を見せる深耶馬溪など毎年数多くの観光客が訪れます。

下流域には黒田官兵衛ゆかりの中津城、福沢諭吉旧居、寺町などの歴史を感じる

観光スポットが数多く点在し、これらの歴史、文化、景観をつなぐ輪となっているのが山国川です。

山国川の特徴として、河床勾配が上中流部では1/200, 下流部でも1/500~1/1000程度と九州の一級河川の中でも急勾配となっています。このため、洪水も起こりやすい環境ですが、降った雨がすぐに流下するので一転して渇水状態となり、その頻度が高いのも特徴です。

## Q今年度の事業概要について

河川維持や耶馬溪ダム、平成大堰の施設管理のほか、令和5年7月出水により発生した災害箇所の復旧や、下流部の流下能力向上のため、令和4年度から着手した中津市相原地区の堤防整備を継続実施していきます。また、流下能力を確保するため、百留地区、原井地区、三光土田地区の河道掘削工事を行います。

令和4年度から工事着手している防災ステーション事業(福岡県側の唐原地区)については基盤整備を行っているところで、令和8年度完成に向け上毛町との協働で事業を進めています。さらに、地域間の交流、「かわ」と「まち」の活性化を促すために「山国川下流地区かわまちづくり」事業を行っており、関係自治体等と協働して



▲防災ステーション



▲令和6年5月よしとみワッショイ春まつり(かわまちづくり整備箇所)

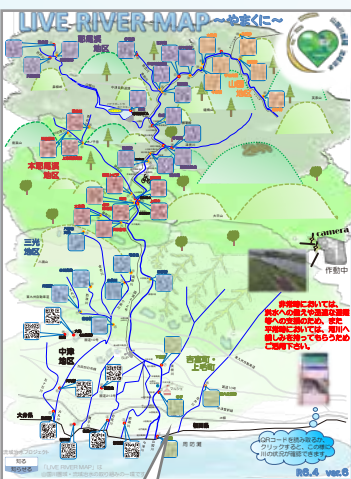
3つの水辺拠点整備(上毛町唐原地区、吉富町広津地区、中津市中津城地区)を行うこととしています。現在、2カ所は整備が完了し、令和6年度末には下流地区全体が概成する予定です。今後は、下流地区と同様に関係者と連携して、「中流地区」へ展開を図っていく予定です。

加えて、カーボンニュートラルを踏まえて、既設ダム運用高度化として、令和6年度から耶馬溪ダムにおいても試行的に洪水後のダムに貯留した水の活用や、洪水が発生しない時期に一定の高さまで水位を上げることによる増電の取り組みも行う予定です。

### Q 地域との連携・協働について

治水対策の効果は着実に発現されていますが、気象変動の影響により、水災害の激甚化・頻発化が懸念される中、山国川圏域(福岡県：吉富町、上毛町、大分県：中津市)においても、流域のあらゆる関係者が協働して、さまざまな施策を総動員し水害対策を行う「流域治水」の取り組みを推進しています。

令和5年度には、山国川圏域流域治水協議会において、流域の特性を踏まえた、目標の3本柱【河川の治水対策】【流木・土砂対策】【小規模河川の氾濫抑制対策】を設定。また、流域の皆様が、自身の流域を知り、自分事に感じ、理解と協力をいただくため、【オリジナルパンフレット】のほか、各行政が設置したカメラを一元マップ化した【ライブリバーマップ】の作成やオリジナル【ロゴマーク】を一般公募のうえ、決定するなど、さまざまな取り組みを関係各者連携のもと進めています。令和6年度は、顔の見える体制を継続しつつ、それぞれの機関の取り組みをさらに深化させていく予定です。



▲ライブリバーマップQRコードを読み取るか、クリックすると川の状況が確認できます。

### Q 地域建設業への要望・メッセージ

山国川流域では、平成24年7月九州北部豪雨、平成30年4月の土砂災害、令和5年7月梅雨前線による大雨など、これまで大きな災害が度々発生しており、そこでは

災害協定を締結している建設会社をはじめ、地域の建設業界の迅速な復旧活動には大変感謝しています。また、災害時のみならず、河川整備や適切な維持管理を実現するにおいても欠かすことが出来ない存在です。



▲令和5年7月出水(中津市提供)



▲令和5年7月出水(大分県中津市耶馬溪町冠右野)

働き方改革や担い手確保など取り組むべき課題等も多くありますが、今後も、パートナーとしていろいろと意見交換しながら、よりよい関係を継続していければと考えております。

### Q 趣味や健康法について

健康維持とダイエットを兼ねて、時間があれば街中をジョギングします。散策しながら走りますので、車中からでは見えてなかった街並みなど、毎回新しい発見があります。自分のペースで無理なく続けていきたいと思っています。また、若いころからバイクが好きで、各地のさまざまな道を走り、地元の景色や季節の移り変わりを楽しんでいました。しばらく乗っていませんでしたが、近々復活し、耶馬溪の眺めを楽しむ予定です。

#### プロフィール



佐賀県生まれ、54歳。  
 H28年4月 九州地方整備局 遠賀川河川事務所 防災情報課長  
 H30年4月 九州地方整備局 企画部 技術検査官  
 H31年4月 九州地方整備局 河川部 水災害対策専門官  
 R2年 4月 九州地方整備局 武雄河川事務所 技術副所長

R4年 4月 環境省 大臣官房 環境影響評価課 環境影響審査室 審査官  
 R6年 4月 現職